

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	戦時・戦後期における啓蒙運動とメディア				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	森山 優
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	鈴木 さやか
		所属・職名	静岡県近代史研究会・会員	氏名	北原 勤
		所属・職名	静岡県近代史研究会・会員等	氏名	山本 誠ほか2名
	発表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	森山 優

講演題目	本学図書館所蔵「浦上史料」紙芝居について
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>本研究は、昭和初期から戦後にかけて爆発的に流行した紙芝居を、メディア史、政治史、地域史等のさまざまな観点から再検討し、新たな位置づけを試みるものである。</p> <p>今年度は、昨年度に開催した掛川（浦上喜平氏の地元）における展示会とシンポジウムのあとを承け、今後の研究について研究分担者との意見を調整した。その結果、浦上史料紹介パンフレットの編集の継続、紙芝居の画像及びテキストデータの蓄積を続けることとし、研究に必要な機材（紙芝居のデジタルデータ化に必要なスキャナーや大画面のモニター）の更新等を実施した。</p> <p>2024年2月には代表者が共同研究員をつとめる神奈川大学常民文化研究所非文字資料研究センター紙芝居班が開催する公開研究会「戦時下紙芝居と現代人形劇の交差点」（コロナ前から延び延びになっていた企画だが、本年度にやっと開催することができた）に研究分担者山本誠と出席した。高瀬あけみ（子どもの文化研究所）による紙芝居、瀧見英明（人形劇の図書館館長）による人形劇のそれぞれ実演と講演に対し、非文字からは紙芝居班の中心として活躍してきた安田常雄がコメントし、紙芝居という表現形式その他について活発な議論が展開した。代表者・分担者もコメントを述べ、今後の研究の方向性について有益な示唆を得ることができた。</p> <p>また、研究費を充当して朝日新聞等データベース『朝日クロスサーチ』（静岡地方版も閲覧可能）を利用したデータの収集を継続できた。一般的には認知度が低い媒体と思われがちな紙芝居だが、多くの記事が発見され、静岡県内でも伊豆、榛原、遠州など各地で寺、文学会などで紙芝居の実践が積極的になされていたことが確認された。以下は記事の一部である</p> <p>「坊さんの紙芝居 三島市附近日蓮宗二十五箇寺の坊さんは紙芝居と幻灯で銃後の浄化をはからうと同市芝町の円明寺住職松山清宜師（四一）を会長に伊豆立正面劇報国会を結成、檀家の会合はもちろん街頭にも進出して“さあ始まり、翼賛紙芝居”チャキチャキチャキとやっつてゐる、なほ材料の貸出しにも無料で応ずるといふ」『朝日新聞』静岡版 1943年2月13日</p> <p>「遠州文学報国会活動 戦ひぬく人々を積極的に文学から導かうと遠州地方文学人によつて結成された遠州文学報国会では企画、文学、演劇三部を設けいよいよ積極的活動に入るが決定した事業は次の通り▽紙芝居コンクール▽移動演劇隊▽素人演劇講習会▽街頭展▽真淵祭▽遠州盆踊り発表会▽団体映画鑑賞」『朝日新聞』静岡版 1943年2月2日</p>